

第七項

自三月二十五日大津鵜祭

二月二十五日(水) 正置 官津泊

午前八時將旗ヲ吾妻ニ移ス

舞鶴出港後湾外ニ於テ舞鶴鎮守府艦隊(三笠、阿蘇、千歲)

ト邂逅ス、禮砲交換、登艦禮式ヲ為シ告別ス

午前十時三十分官津投錨

錨位 吾妻 龍上山ノ北八度東 五鏈半

浅間 吾妻ノ北四百米

午後三時隱岐ニ向ケ編隊出港、航海中停止シテ短艇撈漕

教練ヲ施行ス

編隊汽走成績調査(自二十五日午後六時原速八節)

二月二十六日(木) 正置 北緯三五度四七分

午前八時隱岐島前水路ニ達シ兩後鐵路通巨別府灣

内ヲ一周シ同九時十五分赤灘口ヲ航過シ下関海峡ニ向フ

二月二十七日(金) 正置 吳崎泊

午前三時四十五分角島ヲ廻リ同六時十分下関海峡ニ入ル七時半

海峡ヲ通過シ吳崎ニ向針ス

十時四十五分吳崎沖ニ齊投錨、双錨泊教練

錨位 吾妻 御許山ノ北十二度東七厘三釐
 浅間 吾妻ノ北五十度東四百米

午後十時編隊出港、廣島灣ニ向テ
 二月二十八日(土) 証置 浅間 吾妻 廣島灣
 午前七時怒和島水道ヲ通過シ浅間解列炭水補充
 爲メ吳ニ回航

吾妻甲島南方作業地ニ投錨ス
 至三月七日 主要作業左ノ如シ

三	二	一	六	月
火	月	日	土	日
右	廣島灣ニ魚雷教練射撃	右	吳ニ軍需搭載	浅間
同		同	廣島灣ニ魚雷教練射撃	吾妻
			魚雷教練射撃	吾妻
			廣島灣ニ魚雷教練射撃	聯合作業
			防水教練	記事
			浅間午前吳祭	
			阿多島北方作業地回航	
			晝間應用教練射撃	
			魚雷教練射撃	
			射撃水雷防艦教練	
			張方水雷防艦教練	

0786

第一回 基本演習記

一 實施項目

1. 臨戰準備
 2. 指定教練
 3. 至急點火
 4. 聯合掃海法

七 土	六 金	五 木	四 水
		砲隊教練 水雷教練 魚雷教練 射擊教練 砲隊教練 水雷教練 魚雷教練 射擊教練	聯合掃海實施 艦隊水雷艇 魚雷艇射擊
		同 右	吳三軍需搭載
同 右	第一回 基本演習		
第一回 基本演習 第四日 演習			新旗之淺間移 入吾妻午前 吳三回航

三四

0787

水雷彈射擊(應用教練射擊)

一、水雷攻防演習

二、演習(經過)

三月六日午後零時半演習開始直ニ臨戰準備ヲ令
 シ同二時三十分整備司令官各艦巡視候補生ヲ
 シテ互ニ條艦臨戰準備ヲ見學セシム
 午後七時半合戰準備戰間教練水雷防禦教
 練續テ同八時半ヨリ艦内直哨兵ヲ配備警戒ス
 七日午前零時演習ヲ中止ス
 同八時演習再興至急點火原速八節八時甲春
 整備出動陣形運動ヲモレツ甲島ニ向フ
 同九時半戰間教練吾妻甲島南岸ノ直立岩
 壁ニ對シ榴彈射擊施行終リ倉橋灣ニ向リ
 防火教練防水排水教練陸戰銃隊教練
 午前十時五分倉橋灣ニ齊放砲
 錨位 浅間 笹小島頂南三十五度西六釐
 吾妻 浅間 南東微東六百米
 午後時半聯合通常特別掃海

同六時兵水雷隊、聯合水雷攻防演習開始
 同八時演習終結
 三、聯合水雷攻防演習計畫
 (一) 編制

隊號	兵	力	指揮官
甲軍艦隊	淺間、吾妻		平賀大佐
乙軍水雷隊	第五駆逐隊(朝風、若葉、秋津初春、加古)第七驅逐隊		赤林本中佐

(二) 想定

乙軍水雷隊ハ倉橋灣ニ警戒戒嚴泊セル甲軍艦隊ヲ襲撃セントス

(三) 西軍攻防計畫要旨

甲軍

- 一、哨艇配備、探照區域等ハ別圖ノ如シ
- 二、艦内哨戒法、防禦網ヲ展張シ、直哨兵ヲ配備、警戒ス
- 三、哨艇本隊間規約信號法
- 驅逐艦四隻以下、火雷一發飛揚

三五

0789

同 五隻以上 火箭ニ發續揚
其他吾妻哨艇(水雷艇)ニ無線電信器ヲ裝
備シ規約信號ヲ制定セリ

四探照法

一、探照燈照射法ニ關シテハ別ニ制限ヲ設ケス
只探照燈ノ點滅ハ凡テ淺間ニ做ラテ例トスト雖モ
敵ヲ察見シ又ハ怪ムキ物件ヲ一時照射セント
スルトキハ各艦各自ノ探照燈ヲ使用スルコトヲ得

乙軍

一編制

一、番隊(一)潮、(二)子、(三)初春、
二、番隊(一)菊月、(二)長月、(三)水無月、(四)卯月

二、速力及舵角

原速 十二節、微速 六節

舵角 十五度

三、行動豫定

七時午後五時兵隊早瀬水道ヲ通過、日没後
初春、旗格ニ依リ解列、並行船格ヲ入

0790

シ敵狀ヲ偵察報告スルト同時ニ機ヲ見テ襲撃ス
一番隊ニ番隊ハ湾外ニテ初春ノ報ヲ得テ一番隊ハ
湾ノ北岸ヨリニ番隊ハ湾ノ南岸ヨリ敵ヲ襲
撃スルノ策ヲ執ル場合ニ依リ一番隊ニ番隊ノ順序
ヲ以テ逐次襲撃ヲ行ハントス
襲撃後ノ集合地点ヲ保高島ノ北東一澤トス

(四) 経過

午後六時十五分乙軍驅逐艦ハ西ノ五番燈台西方ヲ
南下シ同四十五分頃桂島水道西方ニ於テ豫定ノ
如クニ隊ニ分離行動セリ

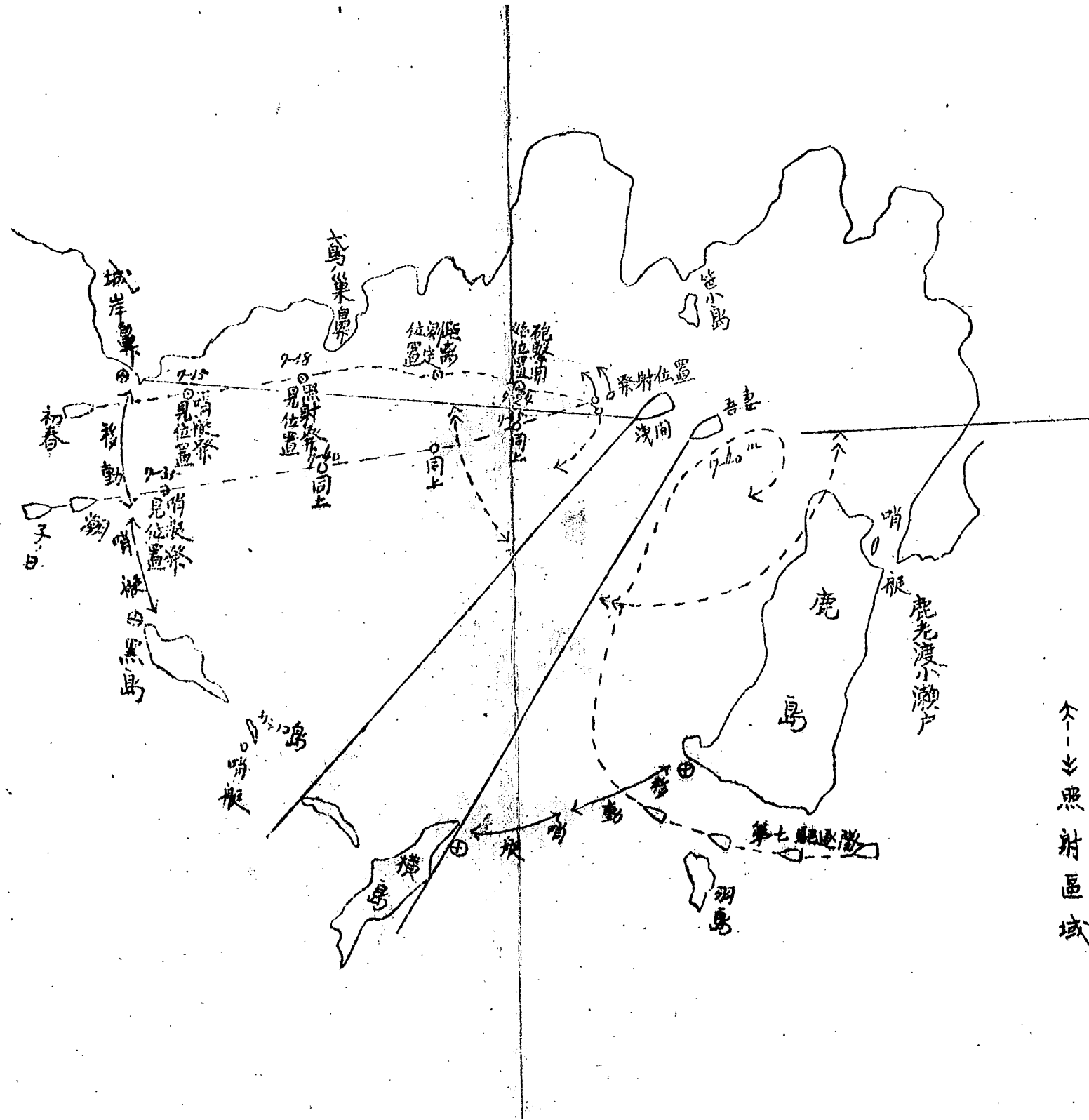
甲軍西艦ハ日没時ヨリ防衛網ヲ展張シ艦内ニ直哨
兵ヲ配備散言戒入又哨艇ハ日没時迄ニ豫定ノ如ク
配備ヲ終レリ

午後七時十五分黒島水道ニ配備セル哨艇ハ城岸
自界ニ極メテ近接潜行セル乙軍驅逐艦一隻ヲ確
認シ火箭ヲ揚ケテ報告ス又同三十五分水道中央
ヲ通過スル第五驅逐隊ヲ認メ之ヲ主队ニ報告リ
又七時頃ヨリ羽島附近ニ配備セル吾妻水雷艇ハ

假裝無線電信機ヲ以テ頻リニ敵狀報告ニ努
 メタリシモ防害ノ為メ通信意ノ如クナラス同三
 分鹿光渡小瀬ウニアル哨艇ハ第七驅逐隊
 四隻又鹿島南方約一哩ニ在ツテ漸次西航スル
 ヲ報告セリ軍艦淺間ニ對シ陸岸ニ近接潜
 行セル初春ハ七時十八分ニ至リ漸ク発見スル
 所トナレリ又淺間ハ哨艇ノ報告後直ニ敵ノ第五
 驅逐隊ヲ認ムルコトヲ得タレトモ殆ト艦首方向ヨ
 リ來襲セシヲ以テ照射面狭小ニシテ容易ニ確
 認スルコトヲ得ス僅カニ艦橋側幕ニ依リテ驅逐艦
 ナルコトヲ判断スルヲ得タリ

軍艦吾妻ニ於テ哨艇ノ報告ト殆ト同時ニ羽島
 附近ヲ西航スル驅逐艦一隻ヲ約三千六百米ノ距離
 ニ発見シ直ニ探照燈ニシテ視カヲ始メテ及テ発見
 ナル状態トナリ約三千米ニ近ツクニ及ヒ始メテ四隻ヨリ
 成ル驅逐隊ナルコトヲ明視スルヲ得タリ當夜ノ如
 ク月明ノ際ハ遠距離ニテハ探照燈光ハ及テ其ノ
 附近ニ在ル艦隻ノ視カヲ始メテ探照燈ヲ實際驗セリ

0792



水路電機第五号上同尺度

⊕ 哨艇避退点
 ↓ 移動哨艇
 ↑ 照射区域
 第六号(次)

0793

三月八日(日) 位野 大島島東端ノ北六度東一哩三鐘

午前將旗ヲ吾妻ニ移ス十時編隊出港四反島ニ向テ

午後二時來島海峡ヲ通過シ三時半四反島泊同所ニ於テ

佳友精鍊所見學

錨位 吾妻 美濃島頂ノ北五度東七鐘半

浅間 吾妻ノ北三度東四百米

三月九日(月) 位野 男木島燈台東三哩五鐘

午前六時半津田灣ニ向テ編隊出港午後一時半同灣ニ假泊

錨位 吾妻 名子島ノ北十度西六鐘

浅間 吾妻ノ北四百米

將旗ヲ浅間ニ移ス

三月十日(火) 位野 神戸泊

正午神戸ニ向テ津田灣祭午前四時半明石海峡ヲ通過シ六

時四十五分神戸外港ニ投錨ス

浅間 和田崎燈台ノ北七十五度東一哩一鐘

錨位 吾妻 浅間ノ西六百米

司令官、西艦長、服部兵庫縣知事ヲ訪問ス

西艦乗員半艇ヨリ浅間參拜隊ヲ編制シ淺川神社ニ參拜セシム

三七

0794

候補生湊川神社參拜續テ陸上各部見學

三月十日(水) 位正 神戶泊

午前七時大阪高ヶ嶺隊出港、八時各艦乘港外ニ於テ水先
案内ノ為テ大阪市港灣課、職負ヲ兼艦長ニ淺間、吾妻

ノ順序ヲ以テ内港ニ六港繫留ス

淺間 五番浮標
吾妻 二番浮標

司令官、西艦長、大久保大阪府知事、池上市長ヲ訪問ス

(大迎第四師團長不在ニ付幕僚ヲシテ名刺ヲ致サシム)

候補生陸上各部見學當港在泊中學生及一般市民、艦内

拜觀ヲ許サズ

三月十二日(木) 位正 大阪泊

司令官、西艦長並各艦乘員半艦桃山御陵參拜

候補生桃山御陵參拜終テ宇治火藥製造所並近畿

各地見學

三月十三日(金) 位正 大阪泊

各艦半艦桃山御陵參拜

大阪府知事、番兵第三連隊長八木幸夫大佐等由

●長代理(回訪)

候補生陸上各部見學

三月十四日(土)

正午

大阪

泊

候補生陸上各部見學

午後六時池上大阪市長外数名ヲ旗艦式間晚餐會ニ招

待ス

三月十五日(日)

正午

大阪泊

候補生安沼川水路見學

三月十六日(月)

午前十時編隊出港伊勢灣ニ向テ

一候補生見學

見學個所左如シ

所	名	摘	要
四阪島	佐友精鍊所	昨午十月候補生源内海見學	見學セシテ以テ其際見學ヲナシ
神戸	鐘刺紡織會社	十日午前八時編隊伊勢灣ニ向テ	見學セシテ以テ其際見學ヲナシ
戸	三菱造船所	參拜終テ見學午後七時	見學セシテ以テ其際見學ヲナシ
川	崎道松所	見學	見學セシテ以テ其際見學ヲナシ

大阪方面

<p>第一日 (五日) 大阪製鋼所 大阪電氣分銅株式會社 工場 日本イン止會社工場 大阪毎日新聞社</p>	<p>第三日 (十三日) 大阪砲兵工廠 大阪造船局 柴島水道水源池 毛斯倫紡績株式會社 工場</p>	<p>第二日 (十二日) 桃山參絲 宇治火藥製造所</p>	<p>第一日 (五日) 住友鑄鋼場 大阪鐵工所 大阪津製油株式會社 大阪電燈會社 大阪電氣會社 佐友伸銅所及同電纜製作所</p>
<p>午前七時繼奉大阪製鋼所 電氣分銅會社工場 午後七時半帰艦</p>	<p>午前七時繼奉砲兵工廠 造船局等順次見學七時帰艦</p>	<p>午前六時繼奉汽車三 條丸時桃山着直三御 綾子拒武天皇御陵參拜 宇治火藥製造所見學 治平等院男山八幡宮 七時帰艦</p>	<p>午前九時繼奉安治川 陸柱及鑄鋼場大阪鐵工 所等順次見學六時見 送子終一帰艦</p>

0797

軍令部

教育本部

保

練習艦隊機密第七〇號ノ六

大正三年四月十九日

谷口海軍省副官殿

小牧海軍省副官殿

先般提督海航海記事追加分送付候

各使宜可取封相成度

右送付

教育本部係

第一班

0798

其他見學豫定個所八個々々照會ヲナシ置ケリ

京	
海軍大臣	造兵廠火藥部並海軍禮型試驗所見學認許
逓信省	相成度上申
東京中央郵便電信局 逓信官吏練習所 統路標識管理所見學三箇	東京中央郵便電信局 中央電信局見學所 統路標識管理所見學三箇

0800

第八項

三月十六日(月)

正置

北緯

東經

三四度

三一分

一三五度

一四分

自三月十六日

至四月十九日

橫須賀出港前日

午前十時伊勢灣ニ向テ出港、防波堤外ニ於テ一時停止短艇

撓漕教練施行

築港外ニ於テ編隊、港外ニ碇泊セシ第一艦隊(根津、石見)ノ近

傍ヲ航過シ友ヶ島水道ニ向針午後二時同水道ヲ通過ス

軍事點檢後指定教練(防火隊、道敷、他艦艇)防排水教練

編隊汽走成績調査(原速九節 自十六日午後六時 至十七日午前六時)

三月十七日(火) 正置 津泊

午前九時伊良湖水道通過同十時四十五分津入港

浅間、贄崎燈竿、東三北一湊

吾妻、浅間、南八百米

司令官儀三重縣知事ヲ訪問ス

候補生短艇撓漕教練

三月十八日(水)

正置

津泊

司令官、吾妻艦長並兩艦乗員半艦神宮參拝

三月十九日(木)

正置

津泊

四〇

0801

海軍大臣ノ訓示 於海軍省內

本日茲ニ諸子ト相見ニルノ機ヲ得タルハ本大臣ノ欣ヲトヨボナリ
諸子今ヤ初期ノ練習ヲ了ハ將ニ遠洋航海ノ途ニ就カントス思フ
ニ軍人ノ本人ハ身ヲ以テ君國ニ委シ忠誠公ニ奉シ毅然トシテ世
俗ニ超越シ一意專心干城ノ責務ヲ完フスルニ在リ諸子須ラタ
日夕軍人精神ノ涵養ニ勉メ奮勵努力以テ帝國海軍ノ光輝ヲ揚
ル下ヲ期スバ此コト聊カ所思ヲ述ヘテ諸子ノ前途ヲ祝ス

候補生見學箇所
横濱實業並東京ニ於ケル見學箇所在如シ

横須賀方面ノ見學

第一日(三月三十日)

海軍病院、走水及觀音崎諸砲臺、走水水雷射堡

浦賀造船所、久里濱ハルリ上陸地

第二日(三月三十一日)

追濱飛行格納庫、防備隊、長浦造兵部並兵器庫

水雷學校砲術學校、機用學校、工務學校

第三日(四月一日)

海兵團、經理部、衣糧科、工廠、品庫、港務部、

鎮守府、工廠

第四日(四月二日)

第一、第二、第三海堡

東京方面、見附

第一日(四月六日)

海軍省、水路部、大學校、軍醫學校、經理校、

造兵廠、艦艇試驗所

第二日(四月七日)

新宿御苑、陸軍火藥研究所、造兵廠火藥部

第三日(四月八日)

中央氣象臺、印刷局、芝浦製作所、東京天文臺、

通信官吏練習所、中央電話局(芝浦交換所)、

第四日(四月九日)

陸軍糧秣工廠、水産講習所、商船學校、

東京製網會社、印刷工場、陸軍被服工廠

第五日(四月十日)

陸軍士官學校、東京砲兵工廠、東京計器製作所

帝國大學、理學部、同工部、東京中央郵便電信局

(終)

0806

近航海軍訓練所候補生衛生概況

一 候補生室

(深間) 候補生室ハ中甲板第四區ヲ以テ之ニ充ツ即チ艦中央ニ於テ其ノ左舷側ニ位置シ長サ二十三尺七寸幅三十尺二十高サ七尺八寸面積七百十五平方尺七寸真容積五千〇六十五立方尺(室内ノ氣積ヲ占有スル箱机等ノ容積ヲ控除シタルモノ) 候補生五十九名對シ毎一人ノ容積八十五立方尺八寸五寸ナリ

出入口ハ室ノ前後ニ各一個ヲ有シ前部ハ第三區ニ後部ハ第六區ニ通シ各高サ五尺七寸五分幅二尺五寸五分ヲ有ス

換氣孔トシテハ舷窓四個(各徑一尺) 天窗一個(幅二尺五寸五分) 及「カ」

(ト) ヨリスル二個ノ給氣管(六寸徑) ヲ有シ其ノ他前記ノ

ノ出入口ハ附近ニ「ハ」チ「ラ」有スルヲ以テ其ノ換氣機先ツ修養

採光ハ前記四個ノ舷窓一個ノ天窗二個ノ「デ」ライ「ト」及十六燭光

燈固定移動ヲ合シ十九個ヲ有シ晝夜共ニ光線ノ配布先ツ充

分ナリ

暖房装置トシテハ室外壁ニ沿ヒ全長ニ亘ル直徑三寸三分ノ蒸氣

暖房管ヲ有シ且ツ内壁ハ「ボ」イ「ラ」イ「ケ」ー「レ」ン「グ」ニ接スルヲ「ハ」チ「ラ」

シテハ優良ノ狀況ニナリ

寢所トシテハ候補生室外其ノ後部ニ接スル第六區ノ左林側
 全部ヲ以テ之ニ充テ其ノ釣床配置及容積等ハ左表ノ如シ

場 所	釣床数	真容積	每人氣積	記 事
候補生室	二九	五〇六四・六七	一七四・六四	容積ハ其ノ左ノ如ク 單座トシテ以テ
第六區左林	三〇	四九二一・〇六	一六四・〇五	
合計平均	五九	九九八五・七三	一六九・二五	

即チ毎一人ニ對スル容積ハ斷リモ一六四・〇五ニシテ平均ニ至
 二五ヲ領シ艦内ニ於ケル寢所トシテハ寛裕ノモノナリト
 云フヲ得ヘシ

各室ノ炭酸量測定、候補生室及寢所ニ於テ行ハラル
 各室ノ前記ノ如ク比較的廣瀾ニシテ其ノ換氣狀況モ亦
 良好ナルヘキヲ想定シ得ラルルモ尚具體的ニ其ノ炭酸
 量ヲ測定スルヲ必要ト認メ、候補生室艦以來
 數回ヨバツテシヨール氏法ニ依リ計測セリ

其成績左如シ
炭酸定量成績表

場所	施行日	施行時	風向	風力	温度	炭酸量	所
候補生室	三月廿七日	午後三時	↓	1	甲板 五六 室内 七三	八三〇	有明湾
同	三月廿七日	午後三時	↓	1	三九 五八	六四五	鎮海湾
候補生室	二月十七日	午前二時	↓	1-2	四三 六一	六〇四	同
同	二月十七日	午前二時	↓	1	四五 五六	八〇六	同
候補生室	三月五日	午前二時	↓	1	四六 六三	一〇・三三	同
同	三月五日	午前二時	↓	1	四九 六四	八・七〇	廣島湾
同	三月廿五日	午後三時	↓	1	六〇 七五	五五七	清水湾

備考一、炭酸量ハ空氣一萬分中ノ量ヲ示ス

二、施行時ノ午前二時ハ炭酸ノ最ニ蓄積シタル時欝リ

右ノ成績ニ徴スル時ハ其ノ炭酸量ハ數キハ五・五七ヨリ一〇・三五ニテ普通通衛生學上ニ於ケル居住所トシテノ怒限量タル一〇・〇ヲ超過スル場合アルモ實際艦内ニ於テハ先ツ佳良ノ位置ニアルモト云フヲ得シ
勿論直接身體ノ健康ニ悪影響ヲ来スル如キ事ナキハ明カナリ
(吾妻)候補生室ハ中甲板第四區左舷后部ニ位置シ長サ三由尺七

0809

寸巾千尺四十高廿七尺六十面積六百平方尺二四真容積四千九百七十九立方尺候補生五十九名ニ對シ毎一人ノ容積ハ十三立方尺二四ナリ出入口ハ内側ニ於テ三個ヲ有シ各高廿五尺七寸中ニ尺三寸ヲ何レモ第一區ニ通ス

換氣孔トシテハ 舷窓四個(各徑一尺三寸)カウル(ツド)ヨリスル一個ノ給氣管兼テサ(口)及前記ノ出入口三個ヲ有シ且ツ内壁ノ上下ニ第四區ニ通スル間隙ヲ有シ其ノ換氣ノ状況佳良ナリ

採光ハ前記四個ノ舷窓及十六燭力ノ電燈固定移動ヲ合シ十四個ヲ有スルモ昼間舷窓ヨリスル光線ノ配布室内諸多ノ造リ附ケ器具ニ妨ケラレテ充分ト云ヒ難シ蓋シ艦ノ構造上止ムヲ得サルモノト認ム暖房装置トシテハ二個ノコキムヒーターヲ有シ其ノ効力先ツ充分ナリ寢所トシテハ前記候補生室ノ外中甲板第四區通路ヲ使用シ其ノ釣床配置及容積等左ノ如シ

場所	釣床数	真容積	每人容積	記
候補生室	二七	四九二.〇〇	一八.一八九	容積ハ立方尺ノ單位トス
中甲板第四區	三二	六九六.七〇	二七.七二	
合計平均	五九	一一八八.七〇	二〇.一三二	

即チ毎一人ニ對スル容積ハ數リモ一八八九ニシテ平均ニ〇.一三二ヲ有ス

寛裕ナル者ト認め

(二) 三種混合豫防疫注射

兩艦練習艦隊編入以前ニ來ニ總員ニ三種混合豫防疫注射ヲ施行シ候補生ハ乘艦後第一回ヲ一月四日佐世保入港前第二回ヲ一月十四日上海ニ入港前ニ施行シタリ、其ノ注射ニ由ル及應症狀況ハ一般ニ著シカラズ即チ左表ニ示ス如ク若干ノ休業者ヲ出シタルモ凡テ注射ノ翌日ノミニシテ第三日ニヨリ休業ヲ要セシ者ハ一名モ察見セザリシ

候補生注射反應表

注射人算	就業者				休業者		記事
	第一回	第二回	第三回	第四回	第一回	第二回	
淺間	五九	五六	五七	〇	〇	三	注射後反應症ハ爲メ及病者トシテハ八度以上ノ休業者トシタリ
吾妻	五九	四五	三二	五	四	九	注射後反應症ハ爲メ及病者トシテハ八度以上ノ休業者トシタリ
計	一一八	一〇一	八九	五	四	一二	

備考、注射液ハ兩艦共海軍軍醫學校製ナリ

(三) 候補生室ノ温度ニ就テ

今回ノ近海航行中ハ時恰モ酷暑ノ候ニ際シ殊ニ寒氣ノ酷數滿洲朝鮮沿岸ヲ航行シタルニ依リ各候補生室ニ前記、如ク若干

三

ノ防寒設備ハ施シタルモ果シテ室内気温ハ著レリ低下スルニ至ラ
ザルヤヲ懸念シタルニ幸ニシテ本年各地共寒氣比較的酷烈ナ
ラズ且ツ室内ニ於テハ甲板温度ニ比シ華氏二十度内外ノ差
ヲ保持シ得其ノ尤モ下降シタル際ニ於テ浅間八十五度 吾妻八四
十八度(此日甲板温度二十度)ニシテタクハ五十六度ノ間ヲ昇降セリ
要スルニ候補生室ノ温度ハ各艦共衛生上顧慮スルニ程度ニ下降
セシ事ナク從テ感冒性患者等々多發スルカ如キ事ナカリキ
今各週ニ於ケル最低温度ヲ表示スルバ左ノ如シ

0812

(四)

候補生ノ体重

乗艦時ノ平均体重ハ浅間十五貫九百〇七匁、吾妻十五貫七百〇六匁ニシテ、爾來漸次少シク増加ノ傾向ヲ示シ三月ニ於テ浅間ハ十六貫〇十九匁、吾妻ハ十六貫〇四十四匁トナリ、其艦時ニ比シ浅間ハ百十二匁、吾妻ハ二百五十八匁ヲ増加セリ詳細ハ左ノ如シ

自大正三年三月候補生体重表

月別	艦名	和量	平均	最大	最小	乗艦時と比較
十二月	浅間	五九	一五九七	二〇二四	一一一八	〇〇五〇
十二月	吾妻	五八	一五七六	一九五〇	一一一三	〇〇五〇
一月	浅間	五九	一五八七	二〇四〇	一一一九	〇〇三一
一月	吾妻	五九	一五八〇	一九〇〇	一一四〇	〇〇三一
二月	浅間	五九	一五九〇	二〇六〇	一一三三	〇〇四二
二月	吾妻	五九	一六三九	一九六〇	一一三八	〇〇五三
三月	浅間	五九	一六〇九	二〇八〇	一一三五	〇〇一一
三月	吾妻	五九	一六〇四	一九九〇	一一二七	〇〇二八

備考、比較欄ニ於テ増ハ黒書、減ハ朱書ノ
毎月第三木曜日ニ秤量セリ

今兩艦全候補生ニ就テ觀察スルニ兼艦時一人平均十五貫八百四十七匁現時一人平均十六貫。兼艦時より現時ニ於テ増加セル事百九十匁ナリ

要スルニ一般候補生ノ榮養状態ハ先ツ佳良ノ成績ヲ示セル者ニシテ換言スレバ一般ノ衛生状況モ亦佳良ナリシヲ推定シ得ヘシ

(2) 患者

(浅間)本期間受診患者總數ハ患者實數三十五名其ノ受診延數二百八十八名(日平均二九四名)内休業延數六十八名(日平均六九名ナリ)受診患者中ノ主ナルモノ左ノ如シ

前田候補生、氣管支炎

本患者ハ且テ兵學校生徒時代ニモ度々本症ニ罹リテ事アリテ或間兼艦以來モ三四回本症ニテ受診シ輕熱ヲ發シタル事アリ或萬一慢性胸部疾患ノ前驅ニナルヤラ憂ヒ時々健康診斷ヲ施行シツ、ナルモ未タ認メキ症状ヲ察見セズ且ツ近來榮養モ漸次良好ニ趣キツ、ナルガ故ニ遠洋航海ニ堪ヘルカ如キ事ハナカラント信ス

其他ハ概テ輕易ノモノニシテ多クハ感冒性ニ属シテ為癆シ性病ノ為著ク榮養ヲ善シ或ハ結核症ナルモノナシ

本患者ハ大正三年三月下旬以來右胸痛全身倦怠等あり
 同六日受診シ目下尚病重ニ收害加療中ニシテ瘵候ハ難
 ルモ恐ラシク遠洋航海ニ堪ヘ得サルナラント想像ス
 右ノ外ハ多ハ感冒性疾患ニシテ多クハ數日ニシテ治癒シ特記スハ
 キモナシ
 要スルニ當期間本艦隊各候補生ノ衛生状況ハ佳良ニシテ胸腹
 患者一名ノ外ニ掛念スヘキ患者ヲ出サハリニ事ハ甚多キナ
 ル所ナリ、
 今當期間各日ニ於ケル受診數及休業數ヲ表ホスルハ左如シ

0817

平均	合計	吾妻	浅間	艦名
	一一八	五九	五九	一百平均負患者数
	一〇三	六八	三五	受診患者数
	八三三	五五八	二八八	一日平均受診患者数
	八五〇	五六九	二九四	受診患者数
七三一		九六四	四九八	一百平均受診患者数
	一八一	一一三	六八	休業患者数
	一八四	一一五	〇六九	一百平均休業患者数
一五六		一九五	一一七	休業患者数

自大正二年三月十九日
至大正三年三月十六日
候補生患者一覽表

休業	受診	場所	月日	休業	受診	場所	月日	休業	受診	場所	月日
0	3	舞鶴	23	0	5	船中	21			江崎	19
0	3	同	24	0	4	旅順	22			同	20
0	3	津浦	25	0	4	同	23	2	5	船中	21
0	2	船中	26	0	4	同	24	2	5	有明	22
0	2	吳崎	27	0	4	同	25	2	5	同	23
0	2	鹿島	28	0	4	大連	26	2	7	同	24
0	2	同	27	0	4	同	27	2	7	同	25
2	5	同	2	0	4	同	28	2	7	同	26
2	5	同	3	0	4	船中	29	2	5	同	27
3	6	吳崎	4	0	4	同	30	2	5	同	28
6	10	同	5	0	4	仁川	31	2	5	同	29
6	12	大連	6	0	5	同	1	2	4	同	30
1	7	同	7	0	5	同	2	1	4	同	31
3	9	船中	8	0	9	船中	3	1	5	同	1
4	9	同	9	0	6	同	4	1	5	同	2
5	10	神戶	10	0	6	鎮海	5	1	5	同	3
4	7	大阪	11	0	5	同	6	1	7	船中	4
1	7	同	12	0	2	同	7	1	7	同	5
1	8	同	13	0	5	同	8	0	7	同	6
2	4	同	14	1	3	同	9	0	7	同	7
2	4	同	15	1	5	同	10	0	6	同	8
3	7	船中	16	1	5	同	11	0	6	同	9
5	9	津	17	0	10	同	12	0	5	同	10
4	9	同	18	0	10	同	13	0	5	同	11
3	9	同	19	0	6	同	14	0	5	同	12
2	6	同	20	0	6	同	15	0	5	同	13
2	6	同	21	0	6	釜山	16	0	5	同	14
2	8	同	22	0	6	竹敷	17	0	5	同	15
5	10	同	23	0	3	博多	18	0	5	同	16
5	13	同	24	0	3	同	19	0	6	同	17
5	13	同	25	0	4	同	20	0	6	同	18
5	13	同	26	0	3	同	21	1	6	同	19
5	13	同	27	0	3	同	22	0	7	同	20

自大正二年三月十九日
至大正三年三月十六日
吾妻候補生患者表

休業	受診	場所	月日	休業	受診	場所	月日	休業	受診	場所	月日
0	1	舞鶴	23	2	4	船中	21			江崎	19
0	0	同	24	2	4	旅順	22			同	20
0	0	津浦	25	3	5	同	23	0	2	船中	21
0	0	船中	26	2	5	同	24	0	2	有明	22
0	2	吳崎	27	1	5	同	25	0	3	同	23
1	2	吳崎	28	3	6	大連	26	0	3	同	24
2	3	同	27	2	6	同	27	0	2	同	25
2	3	鹿島	28	2	7	同	28	0	3	同	26
2	3	同	29	0	6	船中	29	0	3	同	27
2	3	同	30	0	6	同	30	0	4	同	28
1	4	同	31	0	7	仁川	31	1	4	同	29
3	6	同	1	0	1	同	1	1	3	同	30
4	7	同	2	0	1	同	2	1	3	同	31
2	7	船中	3	0	0	船中	3	1	3	同	1
2	7	同	4	0	0	同	4	1	3	同	2
2	7	神戶	5	0	0	鎮海	5	1	2	同	3
0	6	大阪	6	0	0	同	6	1	2	船中	4
0	6	同	7	0	0	同	7	1	3	同	5
0	8	同	8	0	0	同	8	1	3	同	6
0	6	同	9	1	2	同	9	0	3	同	7
0	6	同	10	1	2	同	10	0	3	同	8
0	4	船中	11	1	1	同	11	0	4	同	9
0	3	津	12	1	1	同	12	0	4	同	10
0	3	同	13	1	1	同	13	0	3	同	11
0	4	同	14	0	1	同	14	0	3	船中	12
0	4	船中	15	0	1	同	15	2	3	同	13
0	1	津	16	0	1	釜山	16	1	4	同	14
1	2	清水	17	0	1	竹敷	17	1	4	同	15
1	3	同	18	0	1	博多	18	1	4	同	16
1	2	同	19	0	1	同	19	1	4	同	17
1	2	同	20	0	1	同	20	0	3	同	18
1	2	同	21	0	1	同	21	1	4	同	19
1	2	同	22	0	1	同	22	1	4	同	20

自大正二年三月十九日
至大正三年三月十六日
浅間候補生患者表

供
臨
身

一

邦
元

練習帳第七〇號ノ九

大正三年五月十日
海軍省副官殿

海軍省副官殿
海軍省副官殿

海軍省副官殿

司
員

海軍省副官殿

右及送付係也

(別用紙)

(封)



海

軍
海軍省
海軍省

8.
6.

0819

二 遠航海記事

浅間五隻兩艦近海航海ヲ終ヘ三月二十六日ヲ以テ横須賀軍港ニ
入港爾後各部ノ修理軍需搭載艦底ノ塗換(吾妻)等專ラ遠
航ノ準備ヲ完成スルコトニ努メタリ、而シテ今次遠航寄港地トシ
テ北米合衆國加奈陀及墨西哥西海岸ト豫定サレリシモ當時大正
三年度豫算案ハ尚議會ニ於テ審議中ニ属シ未遽カニ決定ノ
運ヒニ至ラザリシナリ
三月三十一日ニ至リ海軍大臣ヨリ巡航並航路ニ関シ左ノ傳達及訓
令ヲ受ク

四月六日附官房機密第三〇三號ノ二

軍艦巡航ノ件

練習艦隊

軍艦 浅間
軍艦 吾妻

右海軍少尉候補生練(吾妻)ノ為メ英領加奈陀及北米合衆國沿

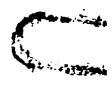
岸へ巡航セシメラル

三月三十一日附官房機密第三〇八號

遠洋航海航路豫定ニ関スル件

其ノ隊大正三年ニ互ルキ巡航豫定ニ関シテハ更ニ之ヲ令示スル
 旨客年十二月官房機密第七二六號追書ヲ以テ及訓令置候
 處右ノ別表ノ範圍内ニ於テ之ヲ調製スル本大臣ノ承認ヲ經
 テ實施スル儀ト心得
 右訓令ス

地名	航程	航海日	航海時	日数	着月日	発月日	記事
大正三年十一月卒業練習艦隊浅間吾妻航路豫定表							
海軍少尉候補練習用							
地	三〇五	一八	〇	一九	五月八日	五月十三日	載炭 水先ヲ要ス
横須賀	二四〇	一一	九	四	五月十六日	六月一日	載炭
ホノルル	一五〇	〇	九	五	六月二日	六月七日	
バンクーバー	八〇	四	六	四	六月十日	六月十七日	載炭 水先ヲ要ス
シヤトル	三五	二	〇	五	六月十九日	六月二十五日	載炭 水先ヲ要ス
桑港	二二〇	一一	二	三	七月五日	七月八日	
サンクトピートル	二〇〇	一	一	二	七月九日	七月十三日	載炭 水先ヲ要ス
ヒロ	三四五	一八	〇	三	七月十五日		
ホノルル	三〇九	六	八	四			
横須賀							
合計							



依于航路豫定表調製上申スルコト左ノ如シ

航行速力八節
 航海破泊総日数 本邦利加方面一〇三
 邦一九九(多摩川)一三二日
 發着月日 總テ本邦ノ月日據ル
 右ノ外淺間ハ横須賀兵間航海(距離五〇哩速力十節)吾妻横
 須賀舞鶴間航海(距離八六六哩速力十節)ヲ要ス

地名	航程 哩	航海日 時	破泊 日数	着月日	發月日	記事
横須賀	三四五〇	一七〇	七	五月七日	四月二十日	煤炭ヲ要ス
ホノルル	二〇〇	一一〇	三	十六日	二十日	
ヒロ	二二三〇	一一〇	四	三十一日	六月五日	水先ヲ要ス
サンパドロ	三八五	二一〇	七	六月七日	十五日	煤炭ヲ要ス
桑港	九四〇	四一三	二	二十日	二十三日	水先ヲ要ス
バンクバ	八二	〇一三	二	二十日	二十六日	水先ヲ要ス
ピクトリア エスカイモルト	一〇〇	〇一三	一	二十日	二十八日	
タコマ	二八	〇一四	一	二十日	七月七日	煤炭ヲ要ス
シヤトル	四〇〇	二四〇	八			

練習艦隊(淺間吾妻)遠航路豫定表

算セルヲ以テ優良炭ナラバ四十八噸位ニテ事足ルベシ(兩艦石炭滿載量ニ對シ左迄冒險的ノ計畫ニハアラハク若又狀況不良ニシテ萬一石炭不足ヲ感スルコトアルモソハ何レシテモ日本沿岸ヲ距ルコト遠カラサル地點ニ達シタル後ナルヘキヲ以テ無線電信ニ依リ本邦ヨリ給炭船ヲ招致シテ海上載炭ヲナスコトヲ得ヘキ故ヲ以テ別紙ノ通函兩地間直航航路ヲ採ルコトト豫定上申セリ本件四月八日附テ以テ認許セラル其他ノ上申令達左ノ如シ

月日	件名番號	事項	摘要	許否
三月廿六日	海軍大臣 淺間檢査隊第九號	遠航中ノ防禦網及附屬具陸揚件	軍樂員中專科卒業者一個借用ノ件	認許
四月十五日	練習艦隊 機密第六一號	絃樂器借用ノ件	開囊交換ニ関シ通信省通信局ト交渉依頼件	認許
四月十四日	軍務局	軍樂員被服線上交換ノ件		認許
四月二日	海軍大臣 練習艦隊 第三一號	外國人接濟費 五百百圓	認許 内五百百圓 同令官用 西艦長用	認許
月日	協賛件名番號	用途	金額	諾否
三月	定期ノ科物 購入費	巨千円	認許 内五百百圓 西艦長用	認許

出張旅費接待費舟車馬類備任算ニ関スル件

三

四月 三日	四月 十二日	"	"	"	四月 三日
海軍 大臣	海軍 大臣	"	"	"	海軍 大臣
練習艦隊 第三〇號	練習艦隊 第二七號	"	練習艦隊 第二七號	"	練習艦隊 第三〇號
"	舟車馬 類備貸	外國旅費 出張旅費	内國旅費 出張旅費	他船煤類購 入費	甲板洗用 砂購入費
五百円	一千円	千七百 五十円	六百五十 円	六十円	四百十円
承認	承認	認許	認許	認許	認許
吾妻用、遠航中各地官憲 訪問其他物品運搬用	遠航中各地官憲訪問其他物品 運搬用	内五百円司令官幕僚用 五百円浅間用	内百十五円司令官及幕僚分 二百五十八円宛兩艦一分	三十円宛 兩艦一分	七十円宛 兩艦一分

0825

自横須賀航路豫定
 至ホールの航路ノ撰定ニ關シテハ西向赤道流及北東貿易風帯ヲ避クルヲ主眼
 トシ其ノ結果殆ンド大圈航路ニ近キ航路ヲ得タリ即

自横須賀至ホールの豫定航路表

變針點	航程	真針路	航海日時	記事
横須賀 野島崎 Lat 34-50 Long 139-56	45	ad Reg 6	9-5.6	14.1 = 3-0 am 偏北風若カハ南西風3-4 艘海流
Lat 34-20' N Long 160° E	992	588-16E	5-4	偏南風及シテ80°子午線 通過、深井辰子北回航向 通過
Lat 37°-0' N Long 180°	1030	578-48E	5-10.1	偏北東風
Lat 23°-0' N Long 160° W	1175	565-50E	6-1	西向赤道流 偏北東風
Honolulu	165	Kaieiwaka Channel 通過	0-2.6	偏北東風 氣温 86-62.0

3.404

17-173

四月二十日(月) 証斷 東京湾内、天候曇、晴雨計三〇・六、甲板温度六一、風向西
 午前七時半ホールのニ向ケ横須賀發遠航ノ途ニ就ク
 午前八時藤本水雷隊司令官、未訪アリ同十時山田鎮守府司令長官
 幕僚ヲ隨ヒテ未訪、枋内工廠長、矢島水雷學校長、森兵水雷隊司
 令官心得、賀茂機關學校長、相前後シテ旗艦ニ未訪、續テ海軍

大臣代理島村教育本部長、伊集院軍令部長、山下軍令部次長、片岡、上村、出羽大將、坂本舞鶴鎮守府司令長官、上泉少將、市川艦政本部第三部長、來訪當隊、首途ヲ送ラレタリ、此ノ日、兩艦士官以上並候補生全部旗艦ニ集合、是等諸官ニ伺候ス、大臣代理島村教育本部長ヨリ告別ノ挨拶アリ、十時同退艦、其ノ際、大喪中ナルヲ以テ、禮砲奏樂等ノ儀、禮ヲ省略セリ

十時半解纜出港、在港各艦登艦禮式ヲ以テ、我行ヲ送リ、我亦登艦禮式ヲ以テ之ニ答フ、艦隊ハ見送りノ為メ、未航セシ第一駆逐隊、神風初霜ヲ缺ク、及第一艦隊(六八七一號艇ヲ缺ク)ト、觀音崎附近ニ於テ告別シ、館山灣ニ向フ、途次第十六驅逐隊並高力運轉中ナル軍艦比叡會シ互ニ登艦禮式、告別ス、續テ館山灣内ヲ一周シ、午後六時野島崎燈臺ノ南八度西五七涅ヲ起點トシ、真針路南八七度東ニ

定針ス、航行陣形單縱陣

此日朝來天候曇風力三乃至四、波浪稍々高カリシモ、風向順ナリシヲ以テ航海甚靜穩ナリシ

軍事點檢後指定教練(兩者救助教練)

四月五日(正午) 館山灣 三三度四分
天候晴 晴雨計三〇四 甲板溫度六九 風向北東 航程二〇三浬

各艦單獨訓練作業 航行陣形單橫陣閉距離

軍事點檢後指定教練(弱者救助教練)終て單縱陣トナス

本日正午ヨリ時辰ヲ正午位置ニ於ケル真時ニ改ム

四月二十一日(水) 位置 東經一四六度二九分、北緯三四度五七分

天候晴、晴雨計二九、九六、甲板温度六七、風向南東、航程一六八浬、

各艦單獨訓練作業 航行陣形單橫陣閉距離

旗信ニヨリ旗流信號(A法)教練

軍事點檢後指定教練(防隊演習教練、他艦松陸戰隊教練)終て單橫陣閉距離一千米

旗信ニヨリ發光信號(A法)教練

日令第二〇號ニ依ル横須賀海軍無線電信所ト通信試驗開始ス

四月二十三日(木) 位置 東經一五〇度五〇分、北緯三四度五〇分

天候晴、晴雨計二九、八六、甲板温度六七、風向北西、航程一九八浬、

各艦單獨訓練作業、航行陣形單橫陣閉距離、

軍事點檢後指示教練(防隊演習教練、陸上選抜艇員短艇操演教練)終て單橫陣閉距離九百米

四月二十四日(金) 位置 東經一五四度二六分、北緯三四度二六分

天候晴、晴雨計三〇、三三、甲板温度五九、風向北西、航程一九六浬

各艦單獨訓練作業、航行陣形單橫陣、常距離トナス

四月二十五日(土)

正置 北緯一五八度三七分 東經三四度七七分

天候晴、晴雨計三〇・九、甲板温度六六、風向西北、航程三〇・二哩

午前五時半地洋丸、午後八時半安洋丸、西航スルニ行達フ

指定教練(防火教練)

軍事點檢後航行陣形單橫陣南距離七百米トナス

午後六時と針路南七十九度東ニ変針ス

四月二十六日(日)

正置 北緯一六二度五〇分 東經三三度五四分

天候晴、晴雨計三〇・二、甲板温度六七、風向西北、航程二・八哩

前日未輕微ナル追風ナルモ海上長濤大ニシテ艦ノ動揺最大、左舷七度、右舷八度

ニ達ス

定時分隊點檢終ツテ勅諭奉讀、航行陣形單橫陣、常距離トナス

四月二十七日(月)

正置 北緯一六五度五六分 東經三三度五四分

天候晴、晴雨計三〇・五、甲板温度六七、風向東、航程一・五三哩

午前一時頃ヨリ風向北東ニ変シ、爾後時ヲ過クルニ從ヒ漸次強力トナリ

波浪長濤亦漸ク高ク逆風、為テ航程ヲ減セサル、トナリ

午前指定教練

(合戦準備戰術教練、陸戰隊教練、水雷防禦教練)

午後各艦單獨訓練作業 航行陣形單橫陣

四月二十八日(火)

位置 北緯 三三度二分

天候 曇 晴雨計 三〇・三〇 甲板溫度 六一 風向 東北東 航程 一四三哩

朝未 風力倍加シ午後三至リ六乃至七トナリ艦ノ動揺稍大ナリ

各艦單獨訓練作業 航行陣形單橫陣

軍事點檢後指定教練 (防炎隊派遣教練艦) 敵艦捕獲教練

四月二十九日(水)

位置 北緯 三三度二分

天候 曇 晴雨計 三〇・三三 甲板溫度 六三 風向 東 航程 一四二哩

風候 前日ニ異ナラス雲翳空ヲ掩ヒ時々降雨到ル海上模糊トシテ

視界甚狭シ

各艦單獨訓練作業 航行陣形單橫陣

午前海軍大臣ヨリ左ノ電訓ニ接ス

大喪中ト雖モ靖國神社例祭ハ例年ノ通執行セラレ候條各艦

團部隊ニ於ケル遙拝式モ恒例ノ如ク施行スル儀ト心得(シ)

但シ喇吹ヲ吹奏スルモノトス

四月三十日(木)

位置 北緯 三三度二分

天候 晴、晴雨計 三〇・三三 甲板溫度 六五 風向 東 航程 一六九哩

天氣稍恢復セシモ風候依然タリ艦最大動揺甚四度ナリ

六

定時送替式休業、航行陣形單横陣、
Pacifier, Mace S.S. Co. 汽船 "China" 歸ト米國陸軍運

送船 "Thomas" トノ間ニ於ケル無線電信ヲ傍受セリ "Thomas"、
馬尼刺ヲ發シ布哇ヲ經テ又祭港ニ航行スルモノ、如シ

五月一日(金) 正午 北緯 三二度二分
天候晴、晴雨計三〇・五〇、甲板溫度六五、風向東、航程一六一哩、
朝来風力漸衰、天候恢復、朝来、鬱氣散セシラ世見エ
長濤尚止マス艦ノ動揺最大五度、晴雨計最高指度三〇・五三ニ達ス
午前一時 "Columbia" 西航スルニ行達ヲ

各艦單獨訓練作業 航行陣形單横陣

午前旗信ヨリ旗號信號(A法)教練

軍事點檢後指定教練 (防水教練、潜水教練、
通商掃海艇隊編制)

午後六時 真針路南六十八度東ニ変針ス

五月一日(金) 正午 西經 七十八度五分
北緯 三〇度三分 甲板溫度六三 風向東北東 航程一七三哩

天候曇、晴雨計三〇・五二

午前二時 北緯 三〇度五十分 地點ニ於テ百八十度ノ正子線ヲ航過

シ五月二日ヲ一日ニ改ム

各艦單獨訓練作業 航行陣形單横陣

午前旗信ニヨリ旗流信號(B法)教練

軍事點檢後指定教練(船舶臨檢、拿捕教練、潜水教練、防火教練)

始メテ布哇「カク」局無線電信ヲ傍受ス

五月二日(土) 位置 西經一七五度三一分、北緯二九度二一分

天候半晴、晴雨計三。四八、甲板溫度六三、風向北東、航程一八四哩、正午ヨリ風力頓ニ衰、風向北東ニ變シ海上亦靜穩トナレリ

軍事點檢後單橫陣閉距離トス

午後六時旗艦、回轉ヲ六十二増ス

五月三日(日) 位置 西經一七二度二〇分、北緯二七度五八分

天候晴、晴雨計三。四二、甲板溫度六七、風向北東、航程一八二哩、定時日曜諸點檢、勅諭奉讀

五月四日(月) 位置 西經一六九度八分、北緯二六度四三分

天候晴、晴雨計三。三七、甲板溫度六八、風向北東、航程一九〇哩

午前指定教練(合戦準備、敵艦捕獲教練、陸戰隊教練、防火防水教練)

航行陣形單橫陣、閉距離二五〇米

午後各艦單獨訓練作業

軍事點檢後指定教練(溺者救助教練)終ニ單橫陣閉距離

午後「カク」無線電信所經由有田布哇、總領事代理ヨリ當隊

司令官宛左ノ通無線電信ニ接ス
 棧橋使用ヲ右側ノミヲ残シ交渉セシニアルゼンチン軍艦入
 港ノ爲メ海軍第二波止場使用ニ供シ度旨回答アリ尚
 コアール少將ニ具官並ニ將校諸氏ノ爲メアレセプションレ催
 シヲシタキ上曰通知アリ諾否返待ツ
 之ニ對シ左ノ如ク返電セリ

第 一 信

To Consul Agent Arita, Japanese
 Consulate, Honolulu. Forwarded
 from Admiral Hewitt.

Received with thanks. Expect
 arrive there Friday 8th inst. Beg
 forward following to Admiral Moore,
 Diplomatic Agents, Commanding Officers
 of war-ships and other high
 Officials concerned both here and
 Honolulu. Being in mourning, displaying

0833

Flags half-mast, beg not observe
 gun-salute for Commanding officers
 and Diplomatic Officials entitled
 to the salute except for National
 Ensigns: Oblige not to accept
 invitation to any entertainment during
 stay at Honolulu and Hilo, as
 Imperial Funeral is not yet over.

0834

第二信
 大喪儀御施行前ニテ謹慎中ノ為メホノルル及リ口口破泊中ノ宴
 會夜會及歡迎會等ノ催シハ絶對ニ謝絶スヘキニ付在留日
 本人並其ノ他ハ之以上日豫メ御通知ヲ願フ
 五月五日(火) 伍置 北緯二六度五五分
 西經一五五度五分

天候晴、晴雨計三〇・三三、甲板温度七二、風向北東航程一九〇哩
 天候快晴暑氣頗加、午後驟雨晏襲來シ薄暮西
 天虹霓ヲ見ル
 各艦單獨訓練作業、航行陣形單橫陣閉距離三百五十米
 軍事点檢後單橫陣閉距離トナヌ
 午後三時米國運送船 *Shannon* ト互ニ位置ヲ通信ス
 五月六日(水) 位置 北緯一六・四度〇分 風向北東航程一七七哩
 天候晴、晴雨計三〇・二八、甲板温度七四、風力三
 各艦單獨訓練作業、航行陣形單橫陣閉距離
 軍事点檢後常距離トナヌ
 艦隊入港ニ関シ總領事代理ヲ経テ左通要港部司令官ト
 少將ニ電報セリ
 Admiral Sturor begs to send his compliments to
 Admiral Moore and informs him that with "Adama"
 and "Atsuma" expects arrive there about
 10 A. M. To-morrow. Should be much obliged
 if he would kindly assign anchorages

0835

and give him any facilities.

五月七日(月)

正午 西經一六〇度二分
北緯二三度五分

天候晴、晴雨計三〇。二四、甲板温度七八、風向東北東、航程一六、
各艦入港諸準備航行陣形、單橫陣、閉距離

午後一時、時辰ヲ布哇標準時ニ改ム

午後一時半、西經一六〇度、北緯二三度五分、地点ニ於テ眞針路南東ニ変針

午後六時、*Manan* 島ノ東北端ヲ南東ニ發見シ續テ

Manila 海峡ニ向テ英國商船 *Strathclyde* 號

マルホルムニ航行スルニ行逢フ

要港部司令官ヨリ返電

要港部司令官ヨリ返電

To Admiral Sturor. Admiral Moore presents his compliments to Admiral Sturor and wishes to inform him that pilots will meet him and offer their services and are instructed to berth *Flagship* at berth seaward the other ships at berth in *Moore*.

九

0836

右ニ對シ直ニ謝電ヲ祭シタリ

五月八日(金)

証 野 口 泊ノルル

天候晴、晴雨計三。一七甲板温度七八。風向東。航程一七六哩。

午前三時 *Osaka* 島ノ西端ヲ認め六時 *Barber's Pt.* ヲ廻リ

泊ノルル 湾口ニ向フ

旗信ニ依リ防水教練ヲナス

同八時港口ニ達シ停止解列、西艦へ水先人ヲ乗艦セシム

九時檢疫ヲ終リ旗艦先ツ入港々外ニ於テ米團々旗ニ對

シ三十一祭ノ禮砲ヲ行フ湾口ナル禮砲砲名ヨリ同数ノ答砲

ヲ受ク 在留邦人發動機附漁船数隻ヲ艦ニ港外ニ於テ我艦

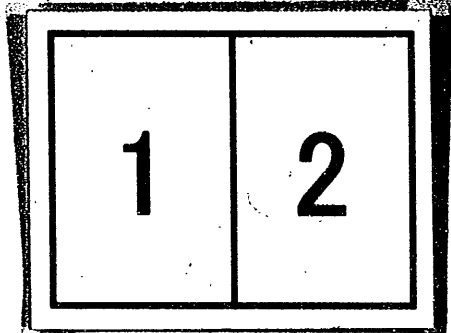
隊ノ来航ヲ迎フ

十時浅間五番ノ棧橋ニ繫留ヲ終ル吾妻續テ入港七番

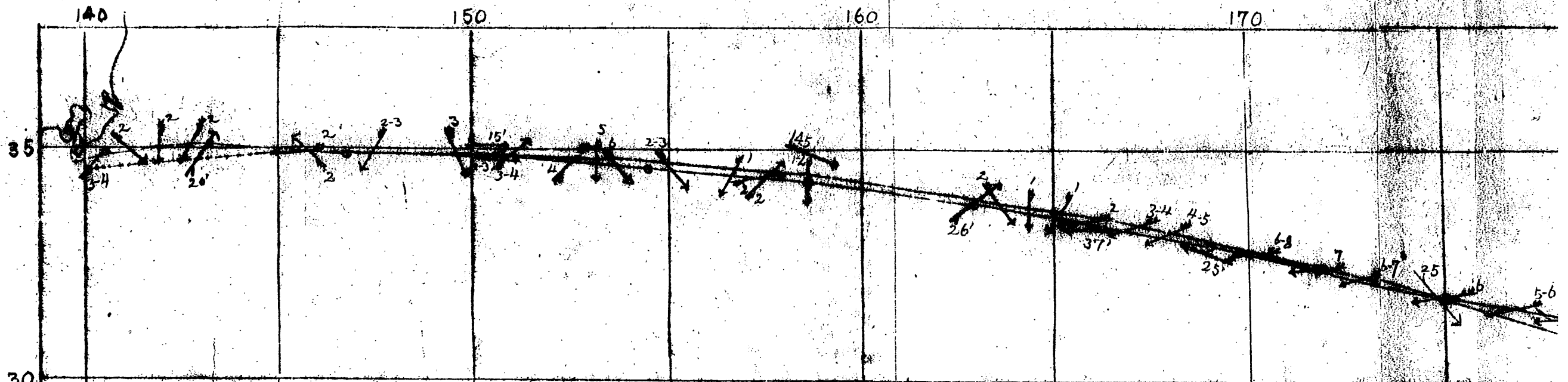
棧橋ニ繫留ス

0837

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0838 0839



日	針路	航程	累計	正午位置		海水温度	天候		晴雨計		寒暖計	
				緯度	経度		午前	午後	最高	最低	最高	最低
4-20	As Reg	203	203	横須賀湾口	62°02'6"	0C	0C	30.17	30.09	66	61	
21	S87E	168	371	35-31N	143-4E	66/	BC	BC	30.03	29.87	67	64
22		198	569	34-57	146-29	65/0.027	"	"	30.16	30.07	71	64
23		196	765	34-50	150-30	62/	"	"	29.88	29.80	69	65
24		202	967	34-26	154-26	"/	"	"	30.27	29.85	69	58
25		218	1185	34-17	158-32	60/	"	"	30.30	30.22	64	55
25	S79E	153	1338	33-54	162-50	62/	"	"	30.22	30.14	67	59
27		143	1481	33-25	165-56	"/	0C	0C	30.17	30.11	69	60
28		142	1623	33-2	169-2	61/	"	"	30.24	30.13	63	59
29		169	1792	32-31	171-45	62/	0CR	"	30.26	30.14	64	60
30		167	1953	31-48	174-58	63/	BC	BC	30.43	30.24	66	60
5-1	S68E	173	2126	31-20	178-2	62/	"	"	30.53	30.42	68	59
2		184	2310	30-23	178-50W	65/	0C	0C	30.53	30.47	65	60
3		182	2492	29-11	175-31	"/0.026	BC	BC	30.48	30.41	67	60
4		190	2682	27-58	172-20	67/0.027	0C	BC	30.42	30.38	71	61
5		190	2872	26-43	169-0	70/	BC	"	30.38	30.32	67	63
6		177	3049	25-25	165-57	71/	"	BCP	30.35	30.28	72	67
20		168	3217	24-10	163-0	70/	"	BC	30.30	30.19	75	62
8	As Reg	176	3393	23-5	160-11	73/0	"	"	30.26	30.12	76	77
				16-10	156-10	73/0	0C	"	30.18	30.10	80	73

↑ ↑
 潮流 風向力
 時間より示す

航跡圖其一

